荒尾市立府本小学校　校長便り　№95

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和8年5月8日(金)

GWの風景

今年のGWも例年と同様にあまりパッとしなかったが、それでも家族と少しでも非日常を味わいたく、娘夫婦も帰省していたので、大規模量販店に足を運んだ。

家族は待ち合わせの時間まで有意義な時間を過ごしたようだが、私はと言えば訪問する場所は決まっていて、書店、スポーツ用品店、玩具店を回ると、かなりの暇な時間ができてしまった。そこで、何をしようかと考えてみた。

まずはゲームセンターに行ってみることにした。まさにごった返している。因みに、プリクラやガチャガチャは特設コーナーとして存在しており、バラエティも豊富だ。我々の時代は、「ゲーセン＝不良」等のイメージがあった時代だが、そのような雰囲気は微塵もなかった。家族連れやカップルがクレーンゲームをしている姿を見ていて気が付いたことがある。みんな笑顔だということだ。ゲームによるドキドキワクワクが笑顔につながるのであろう。

次に、駄菓子屋に行ってみた。子どもだけでなく大人まで楽しんでいるようで、ここでも殆どの人が笑顔だった。ここでは家族が大いに反応した。特に当たり付きの駄菓子にである。ヨーグルト風味のクリーム入っている駄菓子を買ってみた。昼食のついでに食べてみたら、懐かしさが広がると共に、何と「あたり」が出てしまった。まんまと私自身も笑顔になってしまい、私の笑顔を見て家族も笑っていた。金のかからない有意義な時間となった。気付きにくいものだが、案外、日常の中に楽しみは転がっているものだ。

雑感「利己＋利他」

私は学生時代、武道系のサークルに所属していて、「精神的な成熟」も練習の中に入っていました。その教えに『半ばは自己の幸せを　半ばは他人の幸せを』というものがあります。「自分の事を大切」にしながら、「半分は他人の幸せ」も考えてあげなさいって事です。これは、友達関係も勉強や仕事も同じことがいえますね。この気持ちで行動すれば、必ずみんなに幸せがやってくるんですよ。Win - Winってやつです。が、ここで大事な事が一つ。先ずは、『自分の事から！』が大事なのです。心（勇気、愛情、思いやり等）も体もしっかり整えることが大事だと私は感じています。その上で半分でも相手の事を大切にできたらいいと思うんです。自分の事を大事にするというのは、難しい事ではありません。自分を頼ってくれる人達のために、健康でいることも「自分を大事にする」という事です。自分の幸せ、家族や他人の幸せは、表裏一体なのです。我々保護者は、自分の子どもが利己的な大人になって欲しいとは思いません。

仕事も、利他の考え方は重要です。「私は私の仕事をやってますので、あなたも自分の仕事をちゃんとやってね。」って自分の仕事だけを「こなす」だけで、相手のことを慮ることができなければ、組織としての仕事ができませんし、人相手の仕事はできません。

少々、難しい話題になってしまいました。すみません。

シリーズ「自分を語る」#95

チェさんとの研修行脚は、私にとって多くの発見があり、世の中の見聞を広めてくれることになりました。その幾つかを紹介します。畜産関係、食物衛生関係の施設見学がそれです。

「熊本県食肉衛生検査所」は七城町にあります。業務を簡単に言うと、私達が口にするお肉の生産（屠畜）とその検査ですね。この施設では、熊本で初めての「牛海綿状脳症（BSE）」が発見されました。所員の方がその時の大変な状況をお話し頂きながら、施設の見学をするのですが、これがすごいのなんの。「屠畜」と書けば簡単ですが、大きな牛や豚、馬を食べられるようにお肉にするのですから、施設も大掛かりです。私達が視察したのは、牛の屠畜ラインの一部でした。通路の脇にはコンテナが数個並べられていて、何が入っているのだろうと思って見てみると、何と牛の頭でした。所員の方の説明によると、それはラーメンなどのダシを取るために使われているとのことでした。その通路を通りながら、私達が改めて「命を頂く」ことによって生きている、生かされているのだと痛感しました。子ども達に好きな食べ物は何？と聞くと、口々に「ステーキ！」等と答えますが、それが食卓に並ぶまでの苦労、生産者の願いや思い、動物たちの感情を考えると、何か複雑な気持ちになります。

同じような施設をもう一つ、それは「千興ファーム」です。ここは県下有数の馬肉の生産を行っています。いわゆる、馬刺し、の生産ですね。ここも「屠畜」を行っているのです。ここに行く途中の道には、数十頭の馬がいました。そうです、屠畜を待つ馬たちです。もう、そこから何となく切ない気持ちになってきました。施設に入ると、淡々と生産ラインを歩きながら説明をしてくださる職員さんでしたが、チェさんは専門分野ですが、私は専門外どころか社会見学に来た小学生と一緒です。まず、馬が屠畜場に入ると眉間の付近をハンマーのような銃（と仰っていました）で衝撃を与え気絶させ、その後血抜きのため頸動脈を切断します。馬は大きなもので1トンを超えます。血抜きをすると胴体が痙攣するため、加工中に作業員が蹴られると大怪我に繋がります。そのため、血抜きと同時に背髄に大きな鉄棒を刺し、馬の体が反射的に動かないようにします。その後、クレーンで吊るして加工します。ここまでくると、作業はスピードを増していきます。クレーンに吊るすまでは「ダーティーゾーン」、吊るされた後は「クリーンゾーン」で作業をします。クリーンゾーンでは、時間との勝負です。鮮度を落とさないようにするためですね。所員の説明によると、1日に屠畜するのは、多くて5～6頭（当時）だそうです。

この施設でも、作業員の苦労、食の安全性を目指す県職員の思いや願い等々を感じ、「命」を頂くことの有難さを感じ、当たり前ではなく有難い事なのだということを学校現場で伝えていこうと誓いました。

この視察後、私たち2人はすぐ近くにある「サントリー熊本工場」を見学し、生産ラインを見学した後、ビールの試飲コーナーに！　でも、私はハンドル・キーパー！…、チェさんが飲むのを羨ましく見るだけでした。その日の夜はプレミアムなビールと馬刺しで、改めて「命を頂く」ことに感謝して食事をしました。そして、今後担任するであろう子ども達に伝えていこうと誓う澤田でした。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）